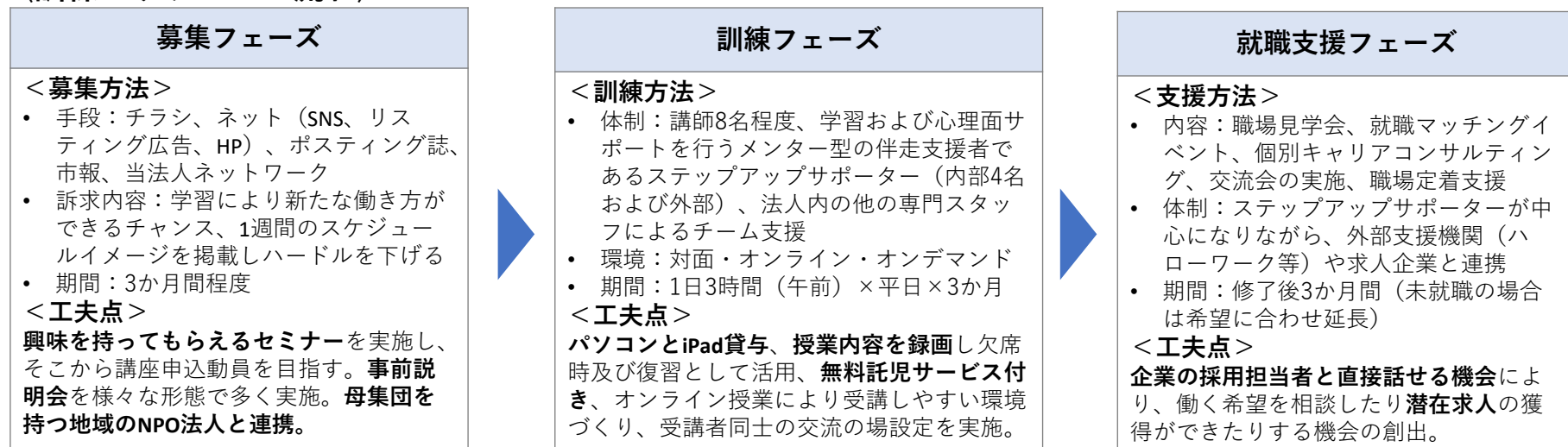


〈訓練パッケージの全体像〉

受講対象者の属性		結婚や出産その他の理由により長期離職している、もしくは、離転職を繰り返している女性。	
受講対象者が直面している課題		離職期間の長さ、子育てのようなライフイベントと仕事の両立、自分の知識やスキルが今の時代に通用するのかわからない等、多くの不安を抱えて再就職への一歩がなかなか踏み出せない。就職活動の方法がわからない。	
訓練概要		仕上がり像：①社会で再び働くことと、継続した自己啓発の重要性を理解する。②これまでの経験とともに、 ICT活用を軸とした新たな能力開発をし、またキャリアを継続的・自律的に築ける人材 となることを目指す。 ポイント：①ICT活用スキルを高められる講座を、 ブレンディッドラーニング型 の学習方法で展開する。②不安解消等心理面でのサポートも必要であり、 トータルサポートシステム（メンター型1on1の伴走支援、チーム支援） も展開する。③就職支援においては、 職場見学や就職マッチングイベントにより企業との対話機会 を持つ。	
訓練の新規性	既存訓練の課題	既存の職業訓練は対面形式で行われることが多いため、オンラインでの体験が不足傾向にある。また、地域の支援ネットワークとの連携も不足している場合が多い。	
	本訓練での試み	コミュニケーション等の授業でオンライン対応スキルの向上を実施。また、キャリアに関する授業では地域の支援機関の理解をするとともに、当法人と地域の団体等が連携をし、受講者の就職支援を実施する。	
カリキュラム		ICT支援員対応ユニット90H	学校やICT支援員の理解、ICT活用演習（科目：ICT概論、ICT活用事例演習・実習）
		DX化推進ユニット82H	ICTツール理解（科目：Google活用、Microsoft365・Teams活用、タブレット（iPad）活用）
		動画作成ユニット90H	デザイン理論およびCanvaを活用した動画作成、著作権理解（科目：動画作成）
		キャリア形成ユニット30H	キャリア形成支援（科目：コミュニケーション、キャリアプランニング、就職支援）

〈訓練パッケージの流れ〉



〈試行結果〉

試行時期	試行 3 回目前期 試行 3 回目後期	2024年9月3日～12月2日 2024年10月1日～12月25日	試行エリア	前期 後期	山口県中部エリア 山口県東部エリア
受講者数等	受講定員：30名 受講者数：36名 修了者数：31名				
就職状況	就職率61.3％				

結果に対する評価

試行 3 回目前期と後期を合わせると上記就職率であるが、**試行 3 回目前期のみで考えると、就職率は91.7％**であり、本プログラムが長期離職者等を対象にしていることを考えると、非常に高い数値といえる。また、IT関連職、ICTを活用する事務職、そして**学校で使用する端末のサポート職**についた修了者もあり、ICT活用力を高めるといふ本プログラムの想定する就職先での就職ケースもあった。

効果が得られた施策とその要因

- 本職業訓練プログラムでは、全ての科目の連動性に注力をした。いずれの科目も**ICTの活用が軸**としてあり、それらの集大成が「ICT活用事例演習・実習」である。ICT活用事例演習・実習の授業ではGoogle フォームで作成したアンケートフォームを二次元コードにしてWordで作った文書に入れる等、本プログラムが想定する就職先の1つであるICT支援員の業務に即しながら、様々なツールを活用した授業を展開した。実際の仕事の現場でも活用できるスキルが身につき、アピールポイントになったと言える。
- キャリア形成ユニットでは自身のキャリアについて熟考する場面が多く、担任が**メンターとなり伴走支援**を行うことで、受講者の不安な気持ちを汲みながらも、就職への弾みをつけるための支援を実施した。また、ステップアップサポーターが学習面およびキャリア形成の支援を行い、放課後の交流会やオンライン交流会等を企画し、受講者同士の交流場面の創出に寄与した。受講者同士の協同により、受講者同士が刺激を受けながらの就職活動につながった。

〈今後の訓練手法活用に向けて〉

今後の課題及び改善策

- ＜募集＞
- 対象者はまだハローワークに行ったことがない方も多く、広報先はハローワークだけでなく、幼稚園、子育て支援団体、市報、ネット広報、ポスティング誌等、様々な方法で行うことが重要である。特に、母集団を持っている地域の団体との連携ができると効果的と感じる。
- ＜訓練＞
- 受講者の中には子育て中の方が多く、リズムをつかむまでは家のこと（子育てや家事）と勉強の両立に苦労するケースが多かった。対面およびオンライン学習とうまく連動するオンデマンド学習のモデルスケジュールを作ること、また、受講者同士でお互いの勉強方法を共有化して良い方法を取り入れる場面の構築が有効であるとする。
 - 開発職業訓練パッケージ（3か月間、292時間）をそのまま使用するのはハードルが上がる恐れがあるため、ユニットごともしくは科目ごと、またトータルサポートシステムのガイドブックをまず活用してみるような、柔軟性を持った活用も有効であるとする。
- ＜就職支援＞
- 修了後の時期があくほど就職活動の一步が踏み出しづらい傾向にあるため、修了後すぐに就職マッチングイベントや職場見学会の企画ができると更に効果的と感じる。